

## アークフラッシュ勉強会

アークフラッシュ本部では、アークフラッシュに関する勉強会を開催いたします。(新技術の施工実習も有り)

日時:平成17年4月3日(日)午後1時より(作業服持参)

場所:東京都新宿区歌舞伎町2丁目28 2東松ビル3F 牡丹にて

施工実習希望者は本部までご連絡ください

## 花粉症

記録的な猛暑だった2004年の夏。花粉症にかかっている人はすでに覚悟はしていることと思いますが、残念ながら今年は**ほぼ間違いなくスギとヒノキの花粉が大量飛散しています**。比較的花粉の飛散量が少なかった昨年春に比べ、今年の飛散量は10~30倍、例年比でも1.5~2倍に及ぶのではないかとの報告もあります。

さらに暖冬の影響で飛散開始が早まり、例えば関東地方では、1月中からある程度の量の飛散が予想されています。

花粉の飛散開始が例年より「早く」、花粉の量が多いことから症状が「重く」、さらに飛散が「長く」続くとの見方もあります。「早くて重くて、長い」...。今年の春は、花粉症患者にとってトリプルパンチの被害を被ることになりそうです。

ご存知のとおり、風邪と花粉症は別物。「症状が似ているので、要注意」とはよく言われていますが、風邪が花粉症の発症と関わりがあることは案外知られていません。

私たちの体内では、アレルギーを起こす物質である抗原(アレルゲン)が進入すると、これらを攻撃するために、抗体が肥満細胞に乗って現れます。肥満細胞は鼻、呼吸器、目、皮下などの粘膜に多く存在しているが、IgE抗体(スギ花粉に対する抗体)と結びつきやすい性質があります。ふたつが結びついて、通常は粘膜の下のほうにいますのでさほど問題はないのですが、何かの"きっかけ"でその数が増えたり、粘膜の表層に上がってきたりすると、とたんにアレルギーの原因・スギ花粉をとらえ、アレルギー症状をおこしてしまいます。

この"きっかけ"のひとつが、風邪をひくことなのです。**風邪をひいて鼻の粘膜が弱っていると、肥満細胞が粘膜の表層に出て来て、IgE抗体と結びつき、さらに**

は花粉をキャッチしてしまうのです。風邪が原因で花粉症を発症することもあるし、症状が重くなることも。春先の風邪には、くれぐれもご用心を。

アークフラッシュを施工した空間は花粉やビールスに対する防御に最適との報告をうけています。

### 副流煙

アメリカのメイヨークリニックの調査によると、2～16歳のぜんそく患者400人のうち、家庭内受動喫煙がある場合は67%、ない場合は26%だったとか。

また、幼児期に副流煙を吸い込むと、肺炎や気管支炎など呼吸器疾患にかかる率が高くなる。その割合は、両親とも喫煙する場合、両親とも非喫煙の場合の約2倍以上高くなっているそうです。子供をぜんそくにしないためには、少なくとも子供の前では絶対に吸わない、一緒にいる部屋や車の中、寝室などでは絶対に吸わないことが必要です。

煙草を吸わない人の呼吸器疾患を防ぐには、共同空間のオフィスや家庭空間・車の中などにアークフラッシュ加工することは、かなりの有効手段といえるでしょう